

製品名: DRP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10165**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	DNM1L DNM1L; DLP1; DRP1; Dynamin-1-like protein; Dnm1p/Vps1p-like protein; DVLP; Dynamin
別名	family member proline-rich carboxyl-terminal domain less; Dymple; Dynamin-like protein; Dynamin-like protein 4; Dynamin-like protein IV; HdynIV; Dynamin-rela
遺伝子 ID	10059.0
SwissProt ID	O00429
免疫原	DRP1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 580-660

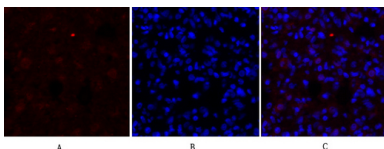
背景

この遺伝子は、GTPaseのダイナミンスーパーファミリーに属するタンパク質をコードする。コードされているタンパク質はミトコンドリアとペルオキシソームの分裂を媒介し、発生的に制御されるアポトーシスとプログラム壊死に関与する。この遺伝子の機能不全は、アルツハイマー病を含むいくつかの神経疾患に関与している。この遺伝子の変異は、常染色体優性遺伝疾患である致死性脳症（ミトコンドリアおよびペルオキシソーム分裂の欠陥（EMPF）に起因する）と関連している。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013年6月]、触媒活性: $GTP + H(2)O = GDP + \text{リン酸}$ 。機能: おそらく膜分裂を制御することにより、ミトコンドリアとペルオキシソームの分裂に機能する。GTPを加水分解する酵素。オリゴマー化してリング状構造を形成し、膜をリモデリングできます。分泌経路の細胞小器官でも役割を果たす可能性があります。、その他:アイソフォーム1とアイソフォーム2は、過剰発現するとペルオキシソームの分裂を阻害しますが、アイソフォーム3とアイソフォーム4は効果がありません。、PTM:GSK3Bによってリン酸化されます。、類似性:ダイナミンファミリーに属します。、類似性:1つのGEDドメインを含みます。、細胞内局在:主に細胞質。膜にも関連しています。ミトコンドリアの分裂部位に局在します。ペルオキシソーム膜に関連し、部分的にPEX11Bによってリクルートされます。小胞体細管および細胞質小胞にも関連しており、核周囲に存在することがわかります。、サブユニット:ホモ四量体; N末端部分は別のDNM1LのC末端部分に結合します。多量体リング状構造に自己集合します。FIS1と相互作用します（相同性により）。GSK3Bと相互作用します。、組織特異性: 普遍的に発現し、骨格筋、心臓、腎臓、脳で最も高いレベルで発現します。アイソフォーム1は脳特異的ですが、アイソフォーム3とアイソフォーム4はそれぞれ精巣と骨格筋で優勢に発現します。アイソフォーム2は脳、心臓、腎臓で弱く発現し、アイソフォーム5は肝臓、心臓、腎臓で優勢に発現します。、

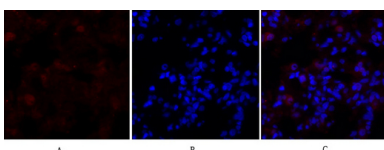
研究分野

エンドサイトーシス;FcガンマRを介した貪食;

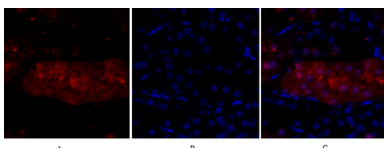
画像データ



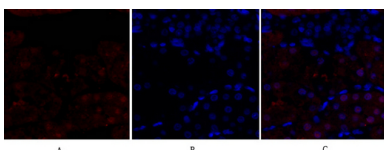
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, DRP1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



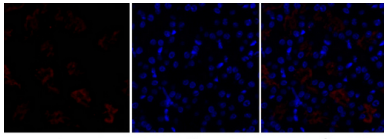
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, DRP1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



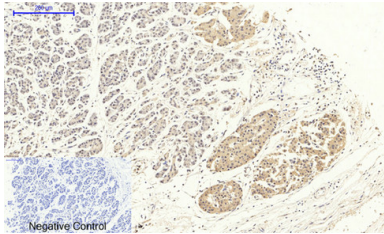
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, DRP1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



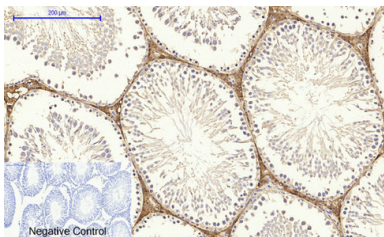
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, DRP1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



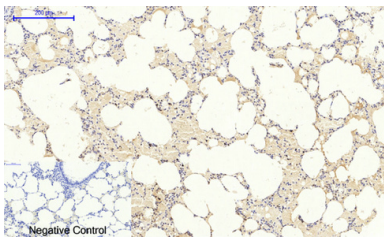
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, DRP1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



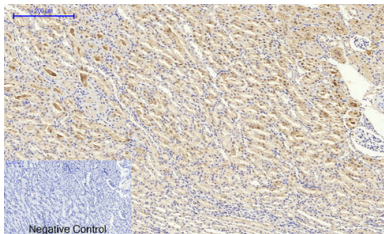
パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. DRP1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学染色。1. DRP1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. DRP1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. DRP1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。